

CASE2：旧戸田家住宅

きゅうとだけじゅうたく

漁網を編んだ旧家の邸宅



▲外観 手前が網工場、奥が主屋。広川町西端の海沿いにある広地区は、旧戸田家住宅をはじめ歴史的な町並みがよく残る。

戸田家は江戸時代から漁業用の網を製造する製網業を営み、また現在の長崎県の五島列島に進出するなど、網元としても重要な役割を果たした広地区の旧家です。旧戸田家住宅の現在の屋敷構えは、後に広村長も務めた戸田保太郎(1864-1941)によって、大正後期から昭和前期にかけて整備されました。通りに面した主屋や網工場のほか、接客用の大座敷棟、上質な造りの隠居棟、なまこ壁が印象的な西蔵と東蔵の計6棟からなり、屋敷を構成する建物全体が庭園とともに良好に保存されています。主屋は建ちの高い2階建ての町家で、網元に相応しい堂々とした外観です。網工場は内部にほとんど柱を立てず、窓を多く設け、作業場に必要の広さと明るさを確保した特徴的な造りです。

「網」がコンセプトのオーベルジュ

家業の製網業は昭和40年代まで続きましたが、平成中頃から空き家状態となり、敷地建物ともに平成26年(2014)に町へ寄附されました。令和4年(2022)から改修工事が行われ、令和6年(2024)9月に古民家オーベルジュ施設としてオープンしました。大座敷棟や蔵などはホテル「いさり」の客室、網工場はレストラン「潮香」、主屋の1階は地域交流スペースとして活用されています。滞在中は歴史的な趣が残る客室でゆったりとくつろぎながら、フランスで腕を磨いたシェフによる地元食材のコース料理を味わうことができます。さらに、レストランシェフは広川町へ移住した地域おこし協力隊であり、様々な面から地域の活性化を担っている活用事例です。



▲内部 レストラン「潮香」に改修された網工場は長さ28mの長大な建物で、製網作業用に広くとられた内部空間が特徴。



活用 DATA

- 旧用途：住宅（製網業）
 - 活用内容：古民家オーベルジュ施設「潮香／いさり」
 - 公開状況：外観は道路から見学可。内部は施設利用者のみ。
 - 営業時間：詳細は施設ホームページでご確認ください。
 - アクセス：JR 湯浅駅から徒歩 15分
 - その他：令和8年(2026)7月上旬、近隣の古民家を改修した「いさり」別館もオープン
- ※令和8年(2026)7月現在の情報です。

基本 DATA

- 登録名称：旧戸田家住宅
主屋、大座敷棟、隠居棟、網工場、西蔵、東蔵
- 登録年月日：平成28年(2016)11月29日
- 建築年代：大正後期～昭和前期
- 所在地：有田郡広川町広 1347 他